

矢野は書籍の注文をするために、書店に電話を入れた。

「はい、山口書店でございます」

「すみません、本の注文をお願いしたいんですけど」

「かしこまりました。それでは書籍名と出版社名をお願いします」

「本の名前が『能力開発二十の方法』、出版者は日本実業出版社です」

「著者名はおわかりになりますか？」

「吉田政雄です」

「お調べ致しますので少々お待ち下さい・・・お待たせ致しました。ただ今お調べしましたが、吉田政雄という著者名で『能力開発二十の方法』という本は出版されていないようです。安田政雄という名前でしたら登録されているようですが、お名前に間違いはありませんか？」

「すみません！ 著者名は安田政雄になります」

「はい、かしこまりました。そうしますと申し訳ございませんが、こちらの本は在庫切れとなっておりますので、お取り寄せとなりますが」

「取り寄せてもらうとしたら、日数はどれ位かかりますか？」

「早ければ木曜日の午前中、遅ければ二週間位お待ちいただくようになってしまいます」

「わかりました。では注文をお願いします」

「かしこまりました。それでは、お客様のお名前とご連絡先のお電話番号をお願いします」

「矢野幸雄(安子)です。連絡先は080-2472-2472です」

「確認させていただきます。お名前が矢野幸雄(安子)様、お電話番号が080-2472-2472ですね。ご注文は日本実業出版社の『能力開発二十の方法』こちらの代金が二七四七円となりますがよろしいでしょうか？」

「はい、結構です」

「それでは、本が入荷出来次第ご連絡させていただきます。担当の西田が承りました。ありがとうございます」

数日後、矢野の携帯電話に山口書店から電話が入った。

「はい、矢野です」

「こちら山口書店と申しますが、矢野幸雄(安子)様でいらっしゃいますか？」

「はい、矢野です」

「こちら山口書店でございます。先日ご注文いただきました書籍が入荷されましたので、矢野様のご都合の良い日に四階のサービスカウンターまで取りにお出度ください」

「はい、わかりました」

「お待ちしております。失礼致します」